

10月7日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナのイバノフランコフスクの議員(2024年10月4日)

ウクライナイバノフランコフスクの議員。

分け前に不満があったのか密告されSBUに捕まった。

皆様のご支援がちゃんと届いててよかったですね。

ゼレンスキー政権は汚職者と泥棒の天国。

<https://x.com/i/status/1842165691186839703>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1842165691186839703/video/1>

②NATO軍事委員長、ウクライナが求める長射程兵器使用を支持「理にかなった方法だ」(2024年10月5日)

【ブリュッセル＝酒井圭吾】北大西洋条約機構(NATO)の制服組トップであるロブ・バウアー軍事委員長が3日、ブリュッセルのNATO本部で読売新聞の単独インタビューに応じた。ロシアの侵略を受けるウクライナが強く求めている米欧から供与された長射程兵器の使用制限の撤廃について、支持する考えを示した。中露などの権威主義国家による連携への強い危機感も明らかにした。

ウクライナは露領内のミサイル発射拠点などを破壊するため、長射程兵器を使う必要性を訴えている。米欧は、露領土への越境攻撃は紛争がエスカレートするリスクがあるとして認めていない。米欧とウクライナで協議している。

バウアー氏は使用制限の撤廃について、「軍事的には理にかなった方法だ」との認識を示した。「撤廃は政治問題で、決めるのは政治家だ」と述べた上で、「侵略してきた国家への攻撃は国際法、武力紛争法で認められている」と指摘した。

米欧高官からは、長射程兵器による越境攻撃で戦況は好転しないとの見方も出ている。バウアー氏はこれに対し、「10キロ先を攻撃できれば、露軍は25～30キロ下がる。90キロ先を攻撃できれば、120キロまで押し戻せる。敵の兵たん能力は低下し、長期的にロシアを弱体化させられる」との見解

を示した。

8月にウクライナ軍が開始した露西部クルスク州への越境攻撃について、「戦略、作戦、技術的に成功を収めた」と指摘し、プーチン露大統領の威信を低下させたと評価した。ただ、ウクライナ東部の露軍を分散させるという狙いについては、「期待通りには実現していない」と述べた。

プーチン氏は9月、露領内への攻撃拡大を受け、ウクライナに兵器を供与するNATO加盟国を強くけん制した。ロシアによる威嚇に関し、バウアー氏は「ロシアは、突然攻撃を仕掛けてくるような準備をしていない」と断言した。抑止力強化の重要性を強調し、昨年NATOに加盟したフィンランドに多国籍軍の拠点を新設する議論が行われていると明らかにした。

ウクライナ支援をめぐるっては、11月に大統領選がある米国で、共和党候補のトランプ前大統領が消極姿勢を示している。バウアー氏は、NATOや日本など約50か国のウクライナ支援が止まれば、「ウクライナは主権を失う」と強調した。NATOはウクライナ軍への訓練や武器輸送の調整を直接行う方針で合意しており、年末までの開始に向けて支援態勢の基盤固めを急ぐ考えを示した。

バウアー氏は、ロシアや中国、イラン、北朝鮮などの権威主義国家間の連携に懸念を示した。「同盟関係になく、互いに信頼していない。だが、協力しているのは事実だ」と述べた。特に、中国が軍事利用できる製品を大量にロシアに輸出していると指摘し、「ロシアを戦争に引き留めているのは中国だ」と強く批判した。

日本との防衛協力については、演習の相互参加やサイバー防衛分野の協力が重要だとし、「より実践的な協力案を作成中だ」と強調した。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/df4135c122a0453de14c42c6c0bd1d762fca5328/images/000>

③重要:ウクライナの崩壊が加速しています！(2024年10月5日)

過去数日間の重要な出来事の要約:

- 1) ウクライナの最も堅固な要塞ウグレダルが陥落
 - 2) ウグレダルを防衛していたエリート第 72 旅団は 92%の死傷者を出して壊滅し、脱出できたのはわずか 8%だった。
 - 3) ウクライナ軍は、兵士が撤退したため、第 72 旅団に残っている支援要員(調理人、運転手)全員を集め、突撃部隊に転属させ、現在戦闘に派遣されている。
 - 4) 第 123 旅団の兵士 100 人が一斉に脱走し、そのまま立ち去った。
 - 5) 兵士たちが戦闘を拒否して去った後、旅団の指揮官は自殺した。
 - 6) ゼレンスキーは、自分が攻撃されたら自動的にクレムリンを攻撃するシステムがあると嘘をついた。彼は怖がっている。
- >派手な広報やソーシャルメディアを除けば、これがウクライナ軍の現状です。
終わりました！



<https://x.com/mylordbebo/status/1842256358202114474?s=46>

④フィツォ・スロバキア首相の意志(2024年10月6日)

フィツォ首相は、スロバキアの TV 番組で来年 5 月 9 日の戦勝記念日にモスクワへ向かう、と述べた。

「私は尋ねたい。WWII 終結 80 周年にモスクワでの平和的イベントに参加するのを誰が止めるのか？私は行くつもりだ」

「自由は東からやってきた」とフィツォ首相は強調し、この事実を決して忘れないと述べた。



<https://x.com/tobimono2/status/1842592412788736267?s=09>

⑤負傷し味方軍に捨てられたウクライナ兵が、ロシア軍に助けられたと証言—すば— —とにく(2024年10月5日)

<https://x.com/i/status/1842425348698374229>



<https://x.com/trappedsoldier/status/1842425348698374229?s=09>

⑥NATOによるウクライナの防衛作戦は第三次世界大戦の始まり……クロアチア が支援を拒否(2024年10月5日)

クロアチアは NATO によるウクライナの安全保障作戦、訓練作戦に今後は参加しない。ミラノヴィッチ大統領が声明で明らかにした。

声明によると、ウクライナは莫大な軍事援助を受けているものの、紛争の終結が近づくどころか、第三国に飛び火するリスクが高まっているという。

大統領の主な任務は「クロアチアを戦争から守り、軍事衝突に巻き込まれないようあらゆる手段を講じること」だとし、NATO によるウクライナ支援への協力拒否を正当化した。

これまでクロアチアは米国とその同盟国によるウクライナ支援を全て支持してきたが、今回は大きく立場を変えた。先にウクライナのゼレンスキー氏は米国を訪問し、「勝利プラン」なるものを提示した。その中でゼレンスキー氏は事実上、NATO による直接的紛争参加を呼びかけた。従って、クロアチアはウクライナによる第三次世界大戦開戦への呼びかけに背を向けた形になると専門家らは評価している。



<https://sputniknews.jp/20241005/nato-19171268.html>

⑦陥落した要衝ウグレダル、ウクライナ軍の指揮官が部隊の脱走に責任を取り自決 (2024年10月5日)

ウクライナ軍第123旅団第86大隊の指揮官、イーゴリ・グリブ中佐(33)は10月2日、100名以上の兵士がウグレダルの陣地から脱走した責任を取り、自決した。

中佐は陣地に残った兵士らを整列させたうえで自決、後に部隊は陣地から撤退したとのこと。

ウクライナ軍は危機的な人員不足に陥っている。ウグレダルには陥落直前に 50 人の新兵が派遣されたが、多くが高齢のため、30 人が戦場に到着後、野戦病院に搬送された。また、16 人は到着前に逃亡。そして残る 4 人は到着後に逃亡したとのこと。

ウクライナ側の防衛ラインは事実上、崩壊しており、NHK を含む西側メディアは年内に多くの町が陥落すると報じている。

グローバルサウスの国々は停戦交渉に応じるようウクライナに呼びかけているが、現時点でゼレンスキー体制は徹底抗戦の構えを崩していないほか、ロシア連邦クルスク州に西側の戦車を新たに投入するなど、侵略作戦も継続している。



<https://sputniknews.jp/20241005/19171543.html>

⑧ゼレンスキー2024年ノーベル平和賞にノミネート(2024年10月5日)

路上で嫌がってるウクライナ男性を拉致して、訓練に前線に送り込んで、自分が座りたい大統領の椅子に座り続けるために戦争を理由に選挙も奪うことが現代の【平和】なら…それなら私はそんな【平和】好きじゃない



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1842470863414989032?s=09>

※安齋注:ノーベル平和賞はノーベル賞受賞者、国会議員、大学教授にノミネート権があり、私も何度かノミネートしたりされたりしましたが、「ノミネート」自身は大したことはありません。ゼレンスキーは3年連続のノミネートです。誰が推薦したのかは知りません。私の場合はアメリカのロバート・コワルチェク、パキスタンのサイド・シカンダー・メディー、イギリスのピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、ノルウェーのヨハン・ガルトウングらが動いていたようです。

⑨ウクライナの日常(2024年10月5日)

TCC の社員と出会ったときにすべきこと、してはいけないことを示す 2 つの物語。まず最初は、逆の話から始めよう。クルスク近郊で死亡したウクライナ人の母親は泣きながら言う。

「息子は月曜日に手術を受けるはずだったのですが、水曜日にルツクで捕まり、手術前の検査を受けに行ったところ、連行され.....訓練場の後、そのままクルスクに連れて行かれたのです」。翌日、彼は死んだ。

そして 2 つ目の話はオデッサでのもので、TCC は別の 青年の車を止め数人で逮捕か戦地に行くかの選択に直面させるために前線に送り込もうとした。しかし、オデッサの住民はアクセルを踏み、TCC の職員を轢き逃走

これは正しいことだろうか？

<https://x.com/i/status/1842599209775865879>



<https://x.com/Z58633894/status/1842599209775865879/video/1>

⑩【Russia News】10/5 時事ネタ土曜版です 🤖!!(ニキータ伝、2024年10月5日)

<https://youtu.be/z67z8V1qAIs>



<https://www.youtube.com/watch?v=z67z8V1qAIs>